

2. 計画の区域

本計画の対象区域は、市全域とします。

3. 計画の期間

計画期間は、令和2年度～令和6年度とします。

4. 計画の目標

取組の方向性それぞれについて、本計画における目標を設定しました。

取組の方向性	評価指標	目標値	
		現状値 (令和元年度)	目標 (令和6年度)
1 すべての人にやさしい公共交通網の形成	・市営バスの免許返納者割引・障害者割引の利用割合	32%	38%
	・啓蒙啓発活動の実施件数	1件/年	8件/年
	・市内行事での公共交通利用促進告知回数	1回/年	5回/年
2 地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備	・市内公共交通網の再編	-	実施
3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化	・真栄里地区区画整理事業の都市計画手続き	-	事業着手
	・シンボルロード周辺市街地整備事業の都市計画手続き	-	事業着手
4 市の活力向上及び持続的発展に資する公共交通の整備	・空港直行バスの運行	-	運行実施
	・市内主要拠点を繋ぐコミュニティバスの運行	-	運行実施
5 地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現	・市職員の公共交通通勤者数	8人/年	20人/年
	・ブーゲンビレア号協力事業者数	2者	3者
	・デマンドバスの収支率	16.5%	増加
	・路線バスへの赤字補填額	23,063千円/年	減額

5. 目標達成のための事業と実施主体

(1) 事業の概要

取組の方向性	事業実施方針	具体的な事業（★：主要事業）
1 すべての人にやさしい公共交通網の形成	(1)すべての人にやさしい移動手段を確保する	①高齢者・障がい者等の生活移動に対する支援策の実施
		②学生の通学移動に対する支援策の実施
	(2)すべての人に馴染む公共交通を目指す	①啓蒙啓発活動の実施
		②市内イベント等と連携した公共交通利用促進策の実施
2 地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備	(1)地域特性や移動需要に応じた移動手段を整備する	①通勤、通学しやすい公共交通の検討・整備
		②市内公共交通網再編に向けた検討・実施
	(2)多様な移動交通手段との連携策を検討、整備する	①パークアンドライド駐車場、カーシェア、サイクルシェア等の連携、整備に向けた検討
		②新交通ターミナルへのレンタカーステーション導入に向けた検討
3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化	(1)新交通ターミナルを中心とした利便性の高い公共交通を整備する	①市民や観光客が集まる機能を備えた新交通ターミナルを整備（★）
		②新交通ターミナルをすべての支線と幹線の起終点とし、あらゆる移動手段を結節
	(2)まちづくりと整合性のとれた公共交通網を形成する	①都市整備事業（シンボルロード整備、小さな拠点創出）と連動した交通結節点の整備
		②他施策と連動した新たな公共交通網の整備の検討
	(3)関連計画や国、県、周辺市町村と協調し、整合した公共交通を検討する	①都市マスタープラン等の関連計画と整合のとれた公共交通の整備
		②国、県、周辺市町村との公共交通施策の協調・整合
4 市の活力向上及び持続的発展に資する公共交通の整備	(1)市外とのアクセス性を高める公共交通を整備する	①空港に直接アクセスできる公共交通の導入検討（★）
		②周辺市町村とのアクセス性向上に向けた公共交通の見直し
		③軌道系公共交通の導入検討
	(2)市内の回遊性を高める公共交通を整備する	①周遊観光に利用できる交通交通の検討
		②市内主要拠点を繋ぐコミュニティバスの導入検討（★）
5 地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現	(1)地域、事業者、行政の協働を推進する	①公共交通に対する企業協賛金制度の導入検討
		②事業者との協働による公共交通施策の実施
		③地域主体の交通づくり支援制度の導入検討
		④市役所来庁者、市職員の公共交通利用促進
	(2)効率的で持続可能な公共交通を検討する	①デマンドバスの本格運行（★）
		②市内補助路線の効率化に向けた取組（★）

(2) 事業の内容と実施主体

1 すべての人にやさしい公共交通網の形成

(1) すべての人にやさしい移動手段を確保する

① 高齢者・障がい者等の生活移動に対する支援策の実施

事業内容	○生活移動困難者に対する支援策等の検討 ・生活に最低限必要な移動が困難な市民に対する割引や支援策等を検討します ○福祉施策等、既存事業との連携 ・障害福祉サービスや地域生活支援事業等、既存事業との連携を図ります
実施効果	・市民の移動満足度向上 ・高齢者の交通事故抑制
実施主体	糸満市、交通事業者、社会福祉協議会、警察

【いとちゃん mini で実施している割引策】

- ・いとちゃん mini では、障がい者、65 歳以上の高齢免許返納者、子ども（小中学生）に対して、割引運賃を適用しています

区 分	運 賃
大人（普通運賃）：高校生以上	300 円、400 円、500 円、600 円の 3 段階の運賃
小人：小学 1 年生から中学 3 年生まで	普通運賃の半額（150 円、200 円、250 円、300 円）
幼児：1 歳以上から小学生未満	保護者同伴で 2 人まで無料 ※3 人目からは 1 人につき小人運賃 ※単独での乗車は不可
乳児：0 歳	無料 ※単独での乗車は不可
高齢者運転免許自主返納者割引	運転経歴証明書の提示により普通運賃の半額 （150 円、200 円、250 円、300 円） ※ただし年齢 65 歳以上に限る ※運転経歴証明書（沖縄県警）
障がい者等割引	身体・知的・精神障害者手帳の提示により本人と付添人 1 人まで半額 （大人の場合：150 円、200 円、250 円、300 円） （小人の場合：80 円、100 円、130 円、150 円） ※10 円未満切り上げ ※身体障害者手帳（沖縄県） ※精神障害者保健福祉手帳（沖縄県） ※療育手帳（沖縄県） ※乗車の際に補助が必要な方は単独乗車不可

▲いとちゃん mini（デマンドバス）の運賃表

区 分	運賃
大人（普通運賃）：高校生以上	均一運賃 160 円
小人：小学 1 年生から中学 3 年生まで	普通運賃の半額 80 円
幼児：1 歳以上から小学生未満	保護者同伴で 2 人まで無料 ※3 人目からは 1 人につき小人運賃 ※単独での乗車は不可
乳児：0 歳	無料 ※単独での乗車は不可
高齢者運転免許自主返納者割引	運転経歴証明書の提示により普通運賃の半額 (80 円) ※ただし年齢 65 歳以上に限る ※運転経歴証明書（沖縄県警）
障がい者等割引	身体・知的・精神障害者手帳の提示により本人と付添人 1 人まで半額 (大人の場合： 80 円) (小人の場合： 40 円) ※身体障害者手帳（沖縄県） ※精神障害者保健福祉手帳（沖縄県） ※療育手帳（沖縄県） ※乗車の際に補助が必要な方は単独乗車不可

▲いとちゃん mini（路線定期運行）の運賃表

②学生の通学移動に対する支援策の実施

事業内容	○通学移動困難者に対する支援策等の検討 ・通学に最低限必要な移動が困難な市民に対する割引や支援策等を検討します ○教育施策等、既存事業との連携 ・県が実施している支援事業等、既存事業との連携を図ります
実施効果	・市民の移動満足度向上 ・公共交通の学生利用増加
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、沖縄県、交通事業者

【沖縄県が実施しているひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業】※沖縄県 HP より

- ・ひとり親世帯の高校生の通学を支援する福祉事業で、県が発行する「バス通学サポート割引カード」をバス会社の販売窓口に表示すると、バス通学定期券（離島は回数券）が割引料金で購入することができる制度

■事業名称：ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業

■事業目的：

平成28年度に県が実施した「沖縄県高校生調査」によると、困窮世帯の約4人に1人がアルバイト収入を通学費にあてており、困窮世帯における通学費負担が大きな課題となっています。

このため、県では、生活面や経済面での負担が特に大きいひとり親家庭の生活の安定と、子どもの教育環境の充実を図るため、高校生を対象にバス通学費の負担軽減を行うこととしました。

■対象者：

児童扶養手当 または 母子及び父子家庭等医療費助成受給世帯の高校生

※生活保護法（生業扶助）受給世帯は対象外

■実施内容：

- （沖縄本島）通学定期券の半額 オキカのチャージ利用や現金は、割引になりません
- （宮古・石垣）通学回数券の3分の1割引（普通運賃の半額）
- （久米島）普通運賃の半額

沖縄県 ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業

宮古・石垣・久米島でも割引を実施中です

ひとり親家庭の
高校生の通学をサポート！

**バス通学定期券
さらに！半額になります。**

ご利用条件 事業効果を確認するためのアンケートへの協力

**2019年度は4月から
割引販売スタート！**

申請期間 **2020年1月31日まで！**

※事前申請が必要です。
割引カードの発行には
約1ヶ月かかります。

バス通学だと
速い通学の負担が
減って助かる！

おトクにバスが
利用できるなら
もっと乗って
みようかな！

アルバイトの時間が
減らせるから
休日に自分の時間
が使える！

割引対象者 児童扶養手当 または 母子及び父子家庭等医療費助成受給世帯の高校生
（高等学校（公立・私立）、沖縄工業高等専門学校（1年～3学年）、専門学校（高等課程）、
通信制高校（通学コース）、沖縄タリスアクションスクールインターナショナル（高専部））
※生活保護（生活扶助）受給世帯は対象外です。

割引対象期間 認定を受けた日から、2020年3月2日までに購入する通学定期券（1ヶ月・3ヶ月）
※認定後に購入した定期券は割引対象外です。

まずはお気軽にお問い合わせください！

申請先・お問合せ／（公社）沖縄県母子家族福祉推進委員会 沖縄県担当／子ども生活福祉課 青少年・子ども家庭課
TEL 098-887-4099 | **TEL 098-866-2174**

ご利用いただけるバス会社
（株）琉球バス交通 / 新嘉バス（株） / 沖縄バス（株） / 宮崎バス（株） / やんばる旅行バス / 宇留宿総合開発（株） / 琉球村営バス

【いとちゃん mini で実施している割引策】

- ・いとちゃん mini では、子ども（小中学生）利用者に対しても、運賃を半額にする割引策を実施しています

(2)すべての人に馴染む公共交通を目指す

①啓蒙啓発活動の実施

事業内容	○学校教育等と連携した利用促進 ・市民が自発的に公共交通を利用してもらえるよう、周知活動（公共交通マップの配布やバスの乗り方教室等）を実施します
実施効果	・公共交通利用者の増加 ・将来の公共交通利用促進
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、交通事業者、地域住民、社会福祉協議会

【浦添市宮城小学校での啓蒙啓発活動（モビリティマネジメント）実施事例】※浦添市 HP より

■授業内容

1. 講義 (15-20分程度)

- 公共交通の必要性に関する資料（小学生用パンフレット、浦添市作成のスライド）を用いて講義を行った。

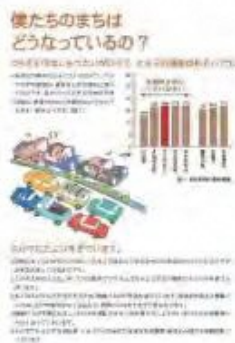


図1 小学生用パンフレット



図2 スライド

2. 交通すごろく (20分程度×2回)

- 交通すごろくのツールを用いて授業を行った。今回は20分×2回実施した。
- ゲームの1回目においては、出した交通手段回数事に排気ガスの排出量を計算。
- ゲームの2回目においては、バスカードの使用は3回までと制限し、渋滞状況の疑似体験。



【座席レイアウト】



配布するツール一覧

- ・各ゲームに1枚ずつ配布するもの
- ・浦添市学校環境（交通）マップ
- ・説明書（ふせん）
- ・バスカード
- ・カードマーカー
- ・車や物結果シート
- ・乗り物カード枚数記録票

3. まとめ (10分程度)

- 交通手段の選択が社会に与える影響について、スライドを用いて説明し、車利用について考えてもらう。



図1 スライド

4. バス利用マナー (15分程度)

- 路線バスの乗り方やバスの車内でのマナーについて知ってもらう。



図1 スライド

■ 授業の様子



※平成 28 年度に実施した例

②市内イベント等と連携した公共交通利用促進策の実施

事業内容	○地域、他施策等と連携した利用促進 ・地域行事や市主催イベント等で公共交通の利用促進を図ります
実施効果	・公共交通利用者の増加 ・市民や従業者が公共交通を考えるきっかけづくり ・イベント会場周辺の渋滞解消
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、社会福祉協議会、観光協会、商工会、その他（イベント主催者等）

【公共交通の利用促進を図った過去の市内イベントの広告事例】 ※2016 年開催糸満フェア

ITOMAN FAIR
糸満の産業まつり

糸満フェア

ラジオ公開生放送
大人気ラジオ番組「チャット・ド・オン」にあのスカイ・ザ・リミットが生出演します！
21日 13:30-15:30

汁の駅 いとまん
糸満フェアに期間限定でオープン。新鮮な海の幸やお肉で作った汁の旨さをぜひ！味わってみて。

発表&無料試食
新糸満グルメ完成「いとまんまぐろだしラーメン」「糸満くわちーレシビ」など、新しい糸満グルメついに完成。みんなで食べてみよう。

宮城県から緊急出店
チャリティ物産展一度食べたならみづきの旨さ、宮城県産市から名物「牛タン」と「笹かまぼこ」の出店が決定。

本気の大抽選会
ヤギ一頭・お米150キロ相当が当たる
1時間ごとに当たる抽選会とWチャンスでヤギ一頭がお米がもらえる抽選会も開催
※2日間だけ開催

イステージイベント
地元人気パフォーマー出演
人気サークル「きらきら」のミュージカルや、糸満高校ダンス部によるストリートダンス、本格的な琉球民謡からエイサー演舞など多彩

島野菜
おいしい島野菜無料試食やレシビ本の無料配布

糸満の物産ここに集結
3日間だけの特別企画。うまんちゅ市場では新鮮野菜の特価販売、お得なタイムセールを開催！
試食販売に特価品も！

手加減しない本気の3日間！ 11月21日 22日 23日
時間 10:00 → 17:00

ご来場はなるべく公共交通機関をご利用ください。
なお、「いとちゃんバス」をご利用の方に**抽選会応募券**を無料配布します。

糸満フェアへのご来場は臨時駐車場をご利用下さい。
漁港駐車場に駐車すると抽選会応募券を無料配布

公共交通で来場した方へ抽選会の応募券を配布

主催：糸満市 共催：JAファーマーズマーケットいとまん、糸満市物産センター、糸満漁業協同組合、お魚センター、トウムイ福祉会、糸満市観光協会、後援：糸満市商工会

2 地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備

(1) 地域特性や移動需要に応じた移動手段を整備する

①通勤、通学しやすい公共交通の検討・整備

事業内容	○通勤通学需要に即した公共交通の検討 ・交通事業者と連携し、市民の移動需要に即した公共交通を検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・通勤通学に伴う市街地の渋滞解消
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、交通事業者

②市内公共交通網再編に向けた検討・実施

事業内容	○地域公共交通網の再編検討 ・地域特性や移動特性に対応した公共交通サービスを目指し、地域公共交通再編に向けて検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上 ・収支改善による継続的な運行
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、国、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、地域住民、社会福祉協議会、観光協会、商工会

【検討の必要性】

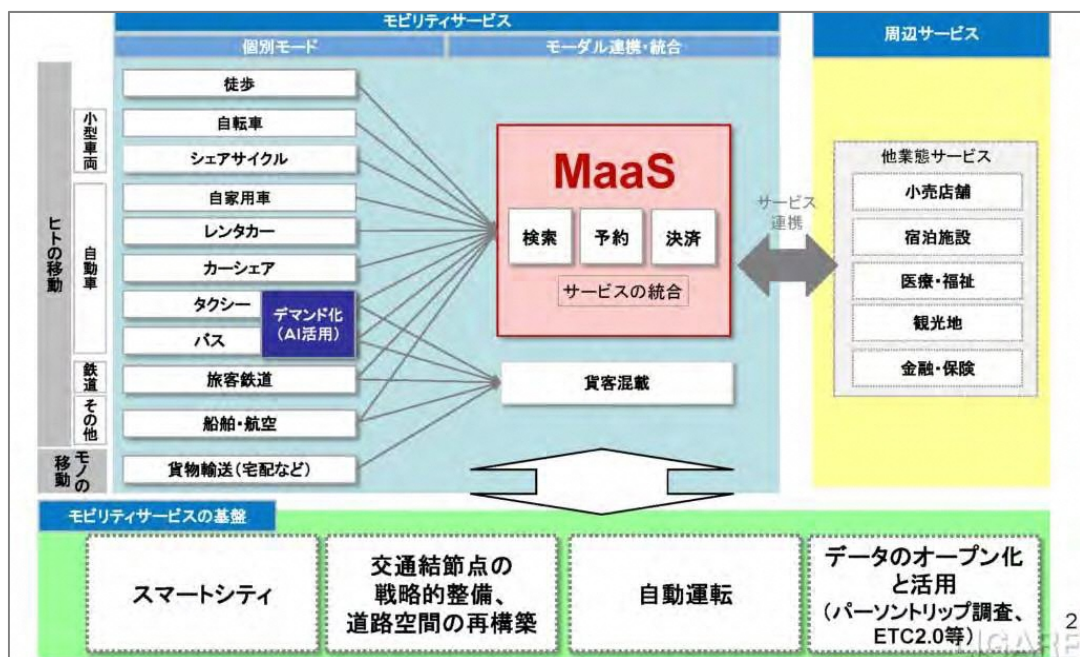
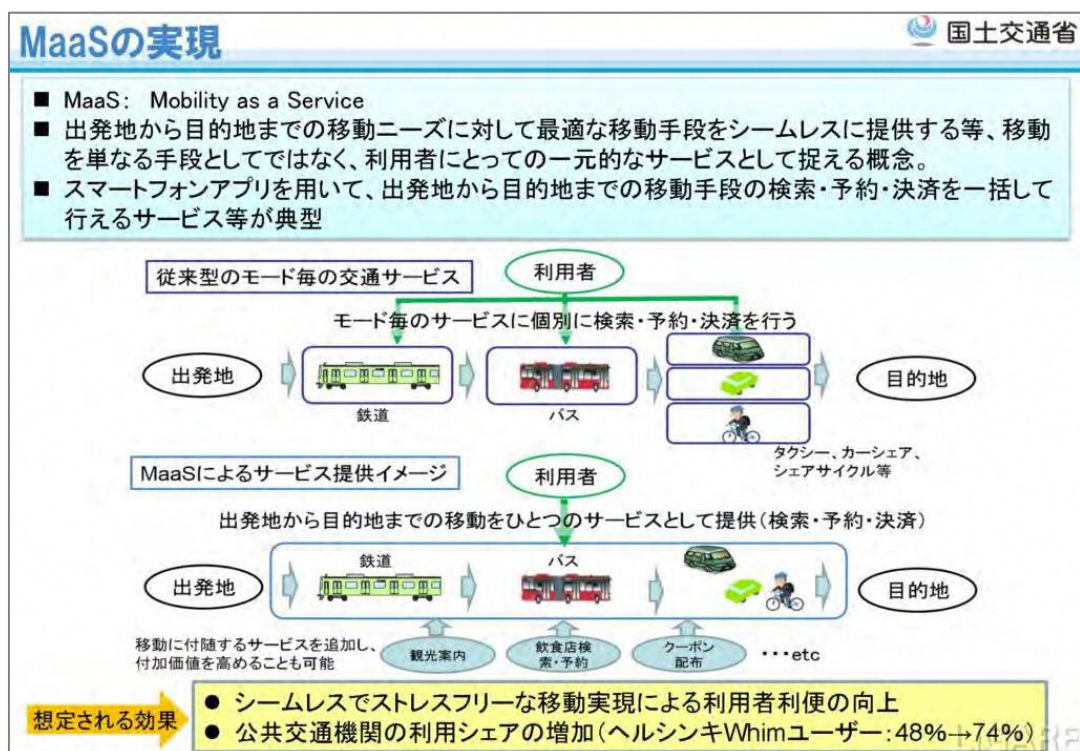
- ・平成30年10月に、市内公共交通網を一部再編し、補助対象路線だった国吉線を廃止、南部循環線の運行頻度を下げ、デマンドバス車両（10人乗り）を使った代替運行を実施しています
- ・いとちゃんmini（デマンド交通）の利用状況や市民・観光客調査から市内の移動需要をみると、人の動き（時間、場所、目的、同行人数）が分散しています
- ・現在の公共交通網では、糸満市の地域特性や移動需要を十分にカバーできていません
- ・そこで、地域特性や移動特性を踏まえたうえで、市内を運行するそれぞれの公共交通の役割や利用対象者を明確にし、市内の公共交通網の再編をすることが必要です

(2) 多様な移動交通手段との連携策を検討、整備する

①パークアンドライド駐車場、カーシェア、サイクルシェア等の連携、整備に向けた検討

事業内容	○公共交通と連携できる交通手段の検討 ・公共交通と組み合わせて利用できる交通手段の整備可能性について検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上
実施主体	糸満市、交通事業者、地域住民、観光協会、商工会、その他（カーシェア、レンタサイクル等あらゆる移動手段の交通事業者）

【国土交通省が推進している MaaS のサービスイメージ】※国土交通省 HP より

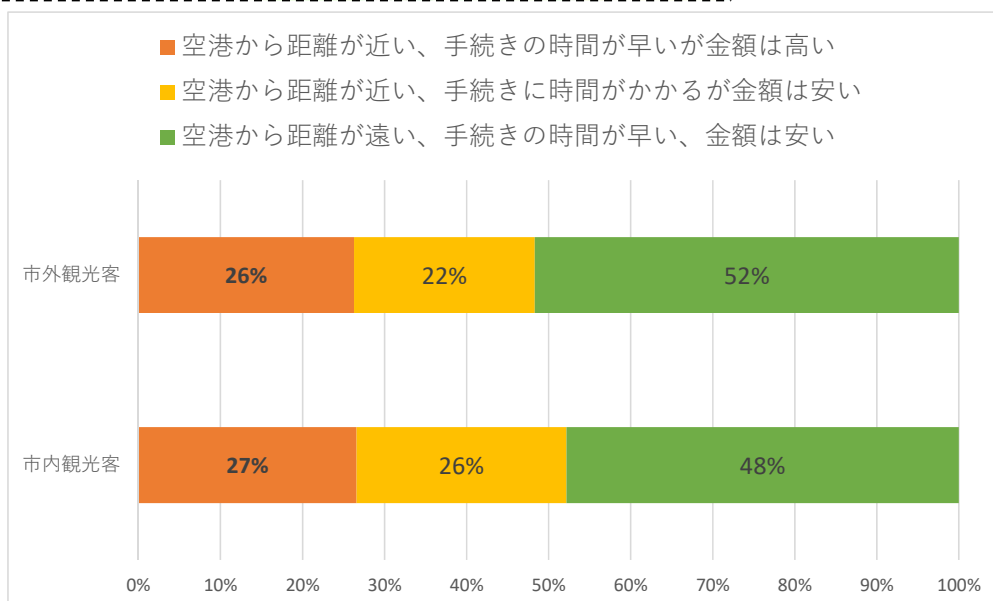
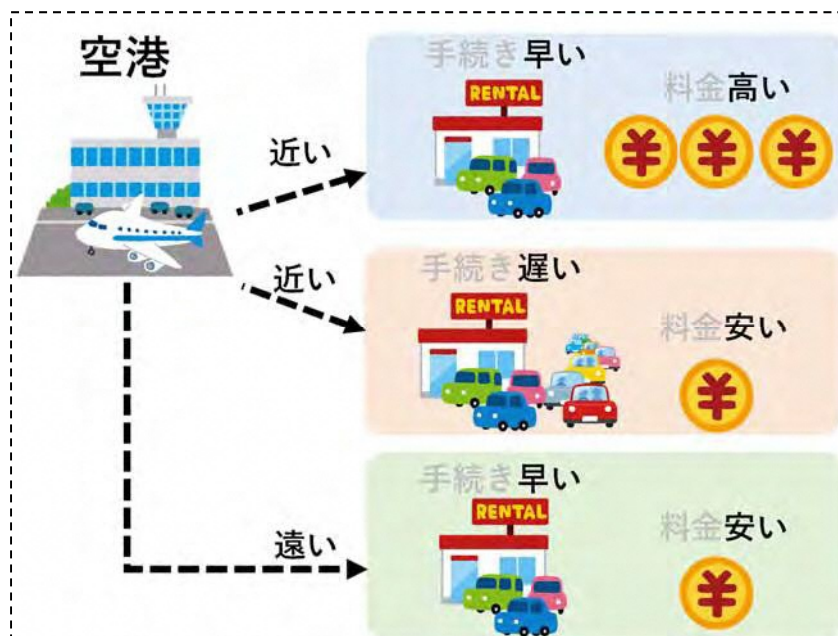


②新交通ターミナルへのレンタカーステーション導入に向けた検討

事業内容	○レンタカーステーション導入可能性の検討 ・真栄里地区に整備するターミナルへのレンタカーステーション導入可能性について検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上
実施主体	糸満市、観光協会、その他（レンタカー事業者等）

【観光客がレンタカーを借りる際の優先度】 ※観光客ヒアリング調査より

- ・市内外観光客へ、レンタカーを借用する際に優先する視点を下記のパネルの3つの営業所のタイプ案から選択してもらいました
- ・両者とも空港から距離は遠いのですが、手続きが早く利用金額が安いことを優先したいと回答した方が最も多い結果となりました



▲ヒアリング時に提示したイメージ図と回答結果

3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化

(1) 新交通ターミナルを中心とした利便性の高い公共交通を整備する

① 市民や観光客が集まる機能を備えた新交通ターミナルを整備（主要事業）

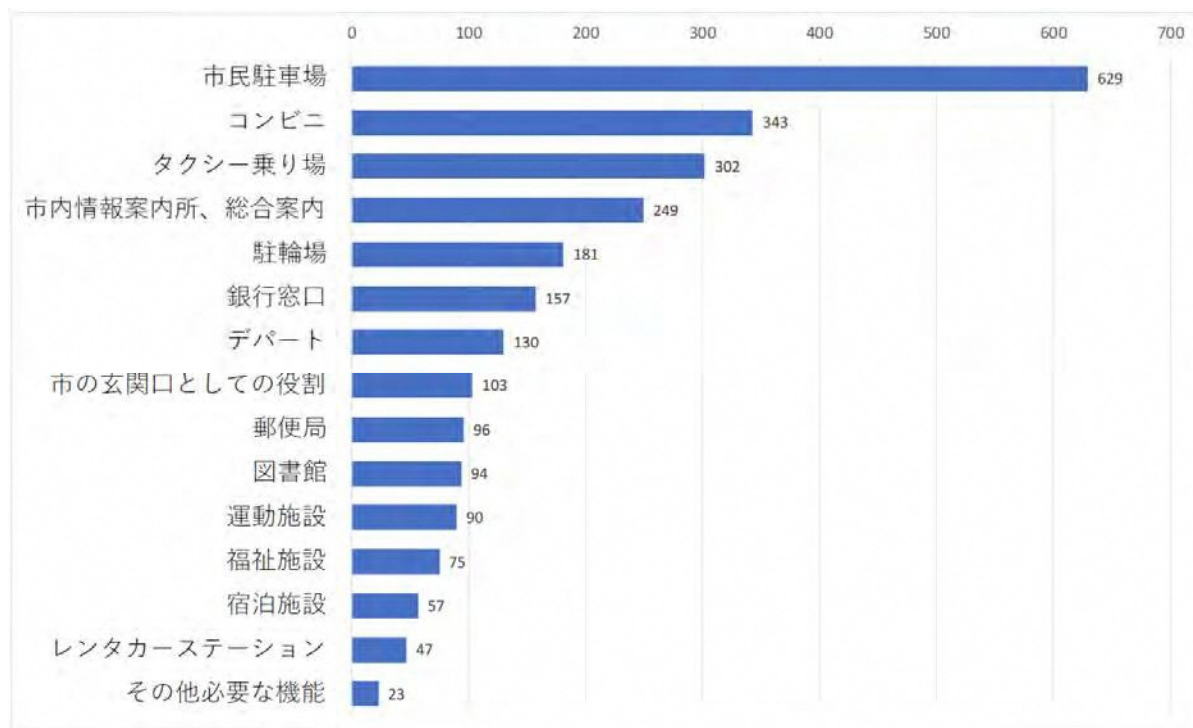
事業内容	○多機能複合施設の整備 ・人とまちの情報が集まり、暮らしの拠点となる多機能複合施設を整備します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・地域活性化
実施主体	糸満市、沖縄県、交通事業者、地域住民、観光協会、商工会、その他（ターミナル入居事業者等）

② 新交通ターミナルをすべての支線と幹線の起終点とし、あらゆる移動手段を結節

事業内容	○交通結節点の創出 ・すべての交通との乗継利便性を考慮した公共交通結節点を創出します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上
実施主体	糸満市、国、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、地域住民、観光協会

【市民が新交通ターミナルに求める機能】

※R1 市民アンケート調査より



※R1 市民ワークショップより

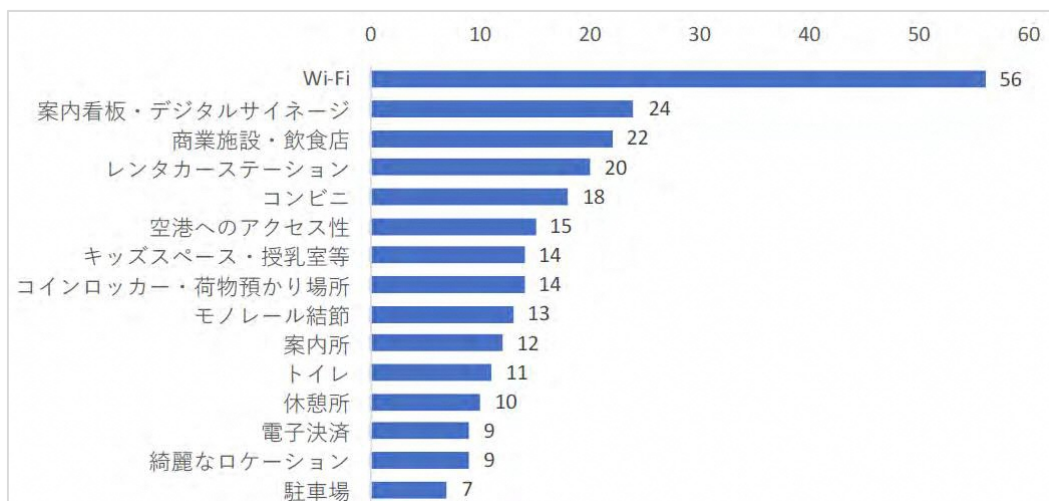
新交通ターミナルにあったら良い機能案 (Aグループ)

避難所	本屋さん	スーパー	ATM コーナー	ネット カフェ	建設施設	ジム
ビジネス ホテル	親子が遊べる 場所 (like a ぞのわん達の駅)	地元の人が 働く場所	周遊バス (買い物出逢バス)	民間による トータルデ ザイン	環境負担軽 減を 数値化	コンビニ
モノレール						

新交通ターミナルにあったら良い機能案 (Bグループ)

資料館 展示方法多 角化	屋上活用	イベント広場 (雨バレーボール 庭園等)	かわいらしい 二階建てバス	診療所 病院	ショッピング モール	サンセット カフェなど
モノレール の停留所	バスターミ ナル 屋根	企業施設 ホテル ラウンジ	映画館	ジム シャワー ルーム	橋を架け る	川を渡る 水上バス
サンセット が見える 配置	子供の為 の施設 保育園	高齢者 施設	役所 銀行	会議室を 作る	多目的に する	展望ス ペースが ほしい
露店用 水道設置	自転車 ロード設置	車庫らしい オブジェ・サ パニ・エーク	避難所 社協等 (SF以上?)	防災 と 福祉	建物を 今風に!	北谷の市 民駐車場 みたい
ホテル						

【観光客が便利だと感じる交通結節点の機能】 ※R1 観光客ヒアリング調査より上位 15 位迄



【真栄里地区に計画されている新交通ターミナルの整備イメージ】



(2)まちづくりと整合性のとれた公共交通網を形成する

①都市整備事業（シンボルロード整備、小さな拠点創出）と連動した交通結節点の整備

事業内容	○都市整備と連携した交通結節点の整備 ・都市整備事業と連携を図り、まちづくりに重要な拠点に交通結節点を整備します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上
実施主体	糸満市、交通事業者、地域住民、警察

【シンボルロード周辺市街地整備事業の整備イメージ】



②他施策と連動した新たな公共交通網の整備の検討

事業内容	○他施策と連動した公共交通網の整備の検討 ・小中一貫校の設立に合わせたスクールバスの導入など、他施策と連動した新たな公共交通網の整備に向けて検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、交通事業者、社会福祉協議会、観光協会、商工会

(3)関連計画や国、県、周辺市町村と協調し、整合した公共交通を検討する

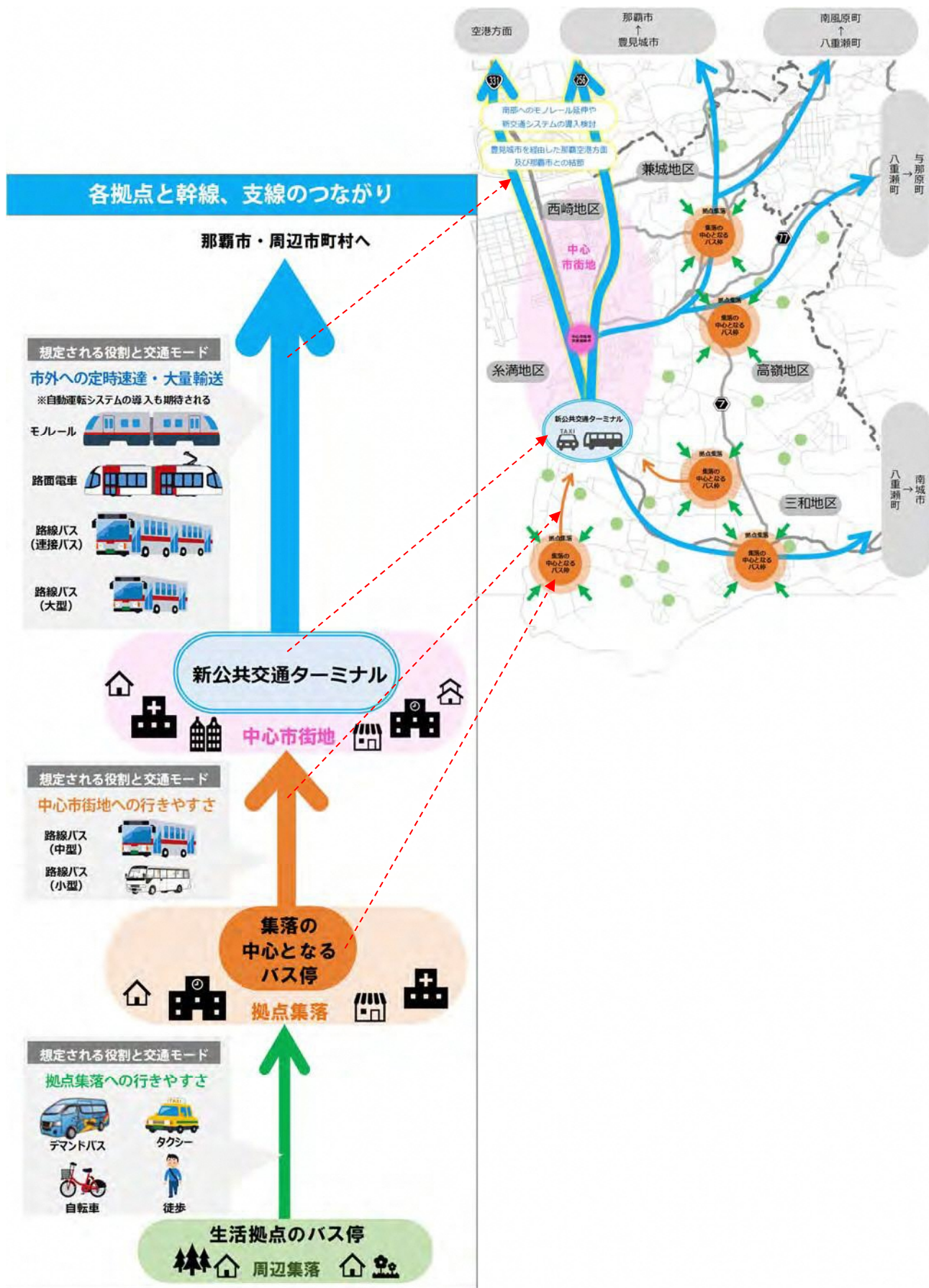
①都市マスタープラン等の関連計画と整合のとれた公共交通の整備

事業内容	○都市マスタープランの進捗に合わせた交通網の整備 ・都市マスタープラン等の関連計画との有機的連携を図るため、段階的に公共交通網を整備します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・他交通手段との接続性向上 ・地域公共交通の維持・活性化
実施主体	糸満市、交通事業者

②国、県、周辺市町村との公共交通施策の協調・整合

事業内容	○他行政機関と協調・整合した公共交通策の実施 ・国、県、周辺市町村と情報交換を密にし、協調・整合した公共交通施策を実施します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の市外への移動満足度向上
実施主体	糸満市、国、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、地域住民

【都市マスタープランと連動した将来ネットワーク形成イメージ】



4 市の活力向上及び持続的发展に資する公共交通の整備

(1)市外とのアクセス性を高める公共交通を整備する

①空港に直接アクセスできる公共交通の導入検討（主要事業）

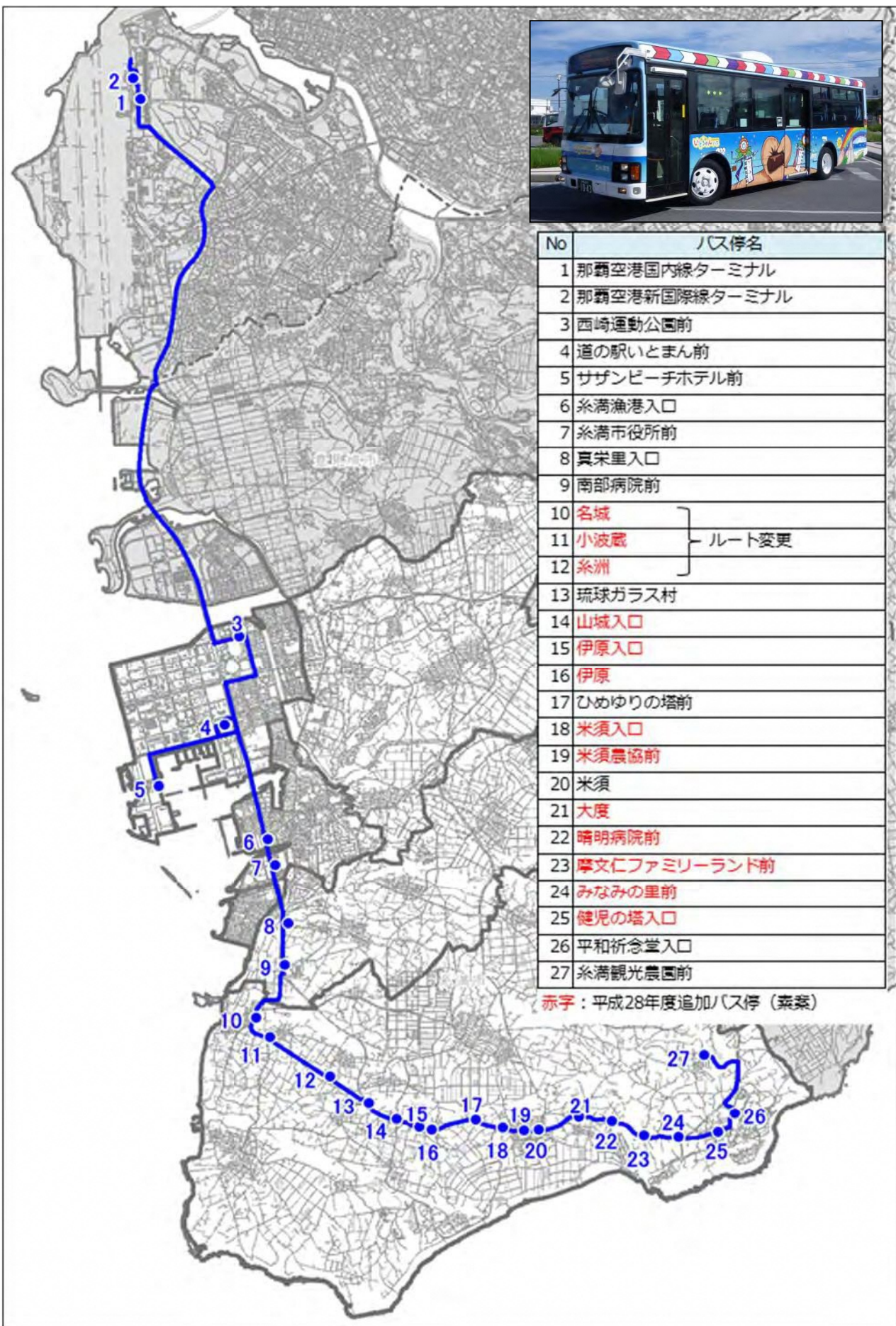
事業内容	○那覇空港直行線の導入検討 ・国道 331 号の地域高規格道路の役割（定時定速）を活かし、那覇空港へ直接結節する公共交通を検討します
実施効果	・市民の市外への移動満足度向上 ・観光客の移動利便性の向上 ・観光客増加によるにまちの活性化
実施主体	糸満市、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、地域住民、観光協会、その他（運行が想定される沿線の事業者等）

【糸満市～那覇空港直行線の実証実験を踏まえた本格運行時の経路等】※H28 年度報告書より

- ・平成 27～28 年度の実証実験時における区間乗車人数と運行距離を勘案し、入域観光客の利用者数が多く事業効果の最も高いと考えられるのは、サザンビーチ・道の駅いとまん～那覇空港間でした
- ・さらに、豊崎地区を経由することで、豊見城市の大型商業施設を利用する観光客を糸満市へ引き込む導線となることが期待されます



▲平成 28 年度実証実験時のバス停乗降者数



▲平成28年度実証実験時の運行ルート

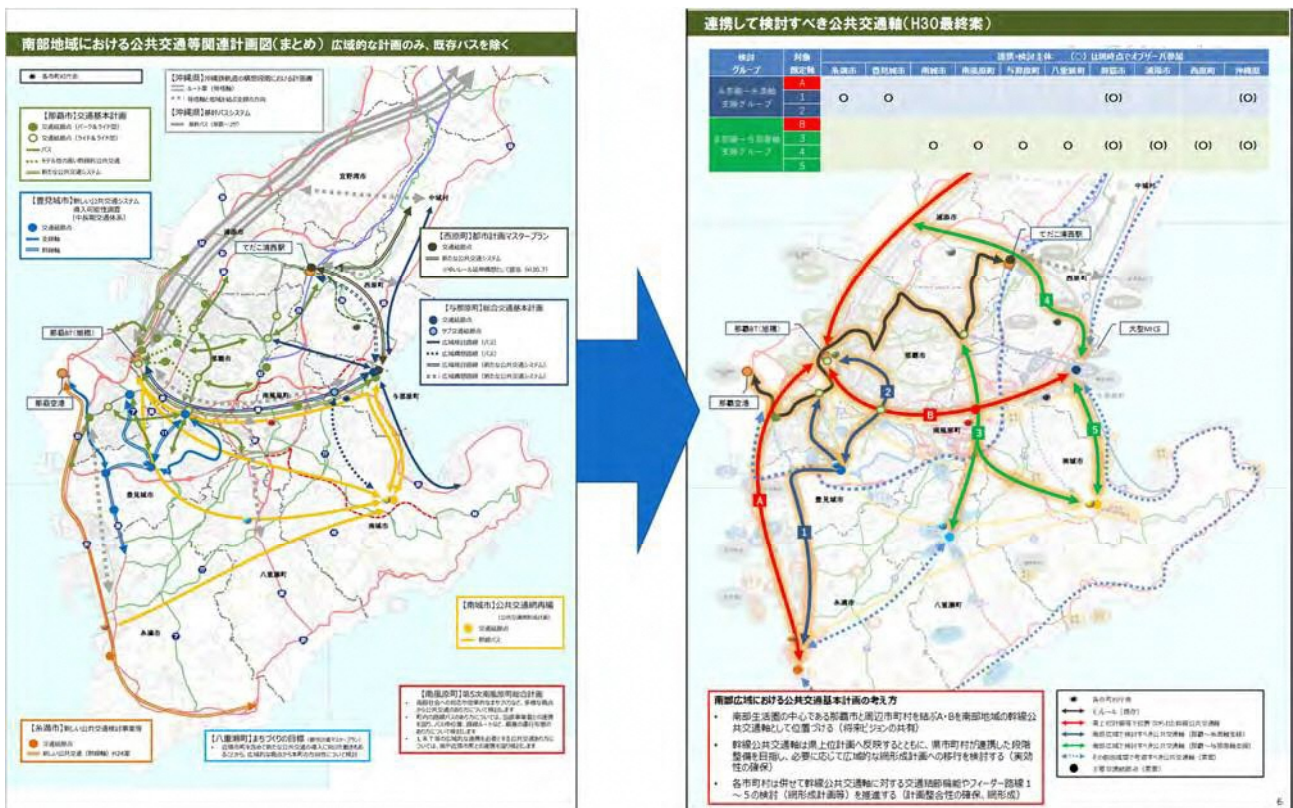
②周辺市町村とのアクセス性向上に向けた公共交通の見直し

事業内容	○周辺市町村への接続性の向上 ・周辺市町村と連携し、現在の路線の運行サービス（運行ダイヤ、乗り継ぎ等）について見直します
実施効果	・市民の市外への移動満足度向上 ・市外から通勤通学する方の移動利便性の向上
実施主体	糸満市、周辺市町村、交通事業者

③軌道系公共交通の導入検討

事業内容	○軌道系公共交通の導入検討 ・豊見城市を經由した那覇空港方面及び那覇市との結節を基幹軸とし、那覇から豊見城そして糸満に至る南部への軌道系公共交通の導入を検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の市外への移動満足度向上 ・市外から通勤通学する方の移動利便性の向上 ・観光客の移動利便性の向上 ・観光客増加によるにまちの活性化 ・定住人口の確保、人口流出の抑制
実施主体	糸満市、国、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、警察

【南部地域全体で連携を検討している公共交通軸】 ※H30 年度島尻地域振興開発推進協議会専門委員会資料より



(2)市内の回遊性を高める公共交通を整備する

①周遊観光に利用できる公共交通の検討

事業内容	○周遊観光できる公共交通の検討 ・市内の主要観光拠点を周遊できる公共交通を検討します
実施効果	・観光客の移動利便性の向上 ・観光客増加によるまちの活性化
実施主体	糸満市、交通事業者、観光協会、その他（市内観光関連事業者等）

②市内主要拠点を繋ぐコミュニティバスの導入検討（主要事業）

事業内容	○市内施設を連絡するコミュニティバスの導入検討 ・市内の一部路線バスの需要もカバーしたうえで、公共施設・生活拠点等を結ぶコミュニティバスの導入を検討します
実施効果	・市民の移動利便性の向上 ・回遊性向上によるまちの活性化
実施主体	糸満市、糸満市教育委員会、交通事業者、地域住民、社会福祉協議会、観光協会、商工会、その他（市内事業者等）

【導入の必要性】

- ・現在のデマンドバス（いとちゃん mini）だけでは、今後増加が見込まれる市民の公共交通を使った移動需要に対応するのは非効率と考えられます
- ・市内を運行する一部の路線バスは、利用者の減少に伴う市の財政負担が増加していることが課題となっているが、現在の利用者の移動手段は確保する必要があります
- ・また、市内の公共施設や、生活拠点等を結ぶ公共交通の導入が市民から求められています
- ・さらに、高齢者・障がい者・小中高生は、自分で予約行為を行うことが困難な方も多く、現在の予約制のデマンドバスを利用したくても、利用できない市民がいます
- ・上記の観点から、市内の一部路線バスの需要をカバーしたうえで、公共施設・生活拠点等を結ぶ公共交通の導入が必要となっています

※しかし、当該路線については、運賃収入のみでの黒字化は難しいことが予想されることから、地域公共交通確保維持改善事業の活用が必要不可欠だと考えられます

■想定される車両タイプ

- ・市民の移動需要を十分に満足するには、集落内の狭小な道路を走行できる必要があり、小型の車両が望ましいと考えられます
- ・さらに、市内一部路線バスの需要と、デマンドバスの需要をカバーする必要があり、一定の定員が確保できる車両が望まれます
- ・上記の観点から、以下のような車両の取得が必要と考えられます

※運行経費同様、運賃収入のみでは車両取得費用を回収することは難しく、地域公共交通確保維持改善事業の活用が必要不可欠だと考えられます

分 類	小型バス
長 さ × 幅	7m×2.1m
乗 車 定 員	約 35 人
最 小 道 路 幅 員	4.7m
価 格 (目 安)	1,500 万円～
燃 費	6.4 km/ℓ

特徴

- ・読谷村の鳳バスや新都心牧志線等で導入されており、全国的にもコミュニティバス（主に路線定期運行）として数多く導入されている車両
- ・運転には大型免許が必要

画像：日野 ポンチョ



(画像・諸元・価格等はロングタイプ)

分 類	小型バス (マイクロバス)
長 さ × 幅	7m×2.1m
乗 車 定 員	～29 人
最 小 道 路 幅 員	4.7m
価 格 (目 安)	440 万円～
燃 費	8.6 km/ℓ

特徴

- ・需要規模の小さい過疎地でのコミュニティバス（路線定期・不定期運行）として使用される事が多い
- ・運転には中型免許が必要

画像：トヨタ コースター



分 類	大型ワゴン
長 さ × 幅	5.4m×1.9m
乗 車 定 員	～14 人
最 小 道 路 幅 員	4.5m
価 格 (目 安)	280 万円～
燃 費	10.2km/ℓ

特徴

- ・比較的小回りが利き狭隘な道路でも通行可能
- ・定員数が多いことからバスと称して使用される事が多い
- ・定員が 11 名以上なら運転には中型免許が必要

画像：トヨタ ハイエースコンピューター

※「おでかけなんじい」で使用している車両



5 地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現

(1) 地域、事業者、行政の協働を推進する

① 公共交通に対する企業協賛金制度の導入検討

事業内容	○企業協賛金制度の導入検討 ・ 今後導入を想定している那覇空港直行バスやデマンドバスの運行を支える企業協賛金制度の導入を検討します
実施効果	・ 協働による地域公共交通の維持・活性化
実施主体	糸満市、商工会、その他（市内事業者等）

【バス停オーナー及びバス車外広告の募集事例】 ※沖縄市 HP より

- ・ 沖縄市では、交通弱者の増加と生産年齢層の減少による税収の減少を見据え、市民生活の足となる「沖縄市循環バス」を官民協働により安定的、持続的に運行していくため、企業、団体等によるバス停オーナー及び循環バス車外広告を募集している

■ 協力金と広告媒体内容一覧表

	協力金の額	広告媒体内容
バス停オーナー	180,000 円／1 基	オーナーの名称を付したバス停の設置及び管理 市内全世帯に配布するバスマップにオーナー名称を掲出 市のホームページにバス停オーナーの紹介ページを掲出 車内放送でオーナーバス停名称及びPRのアナウンス
循環バス車外広告	120,000 円／1 枠	循環バス車外に企業等名称を掲出（200 mm×600 mmを基本とした 1 枠 0.12 m ² ） 市内全世帯に配布するバスマップに企業等名称を掲出

※平成 30 年 7 月 2 日から施行

■ 車外広告が掲示されている例



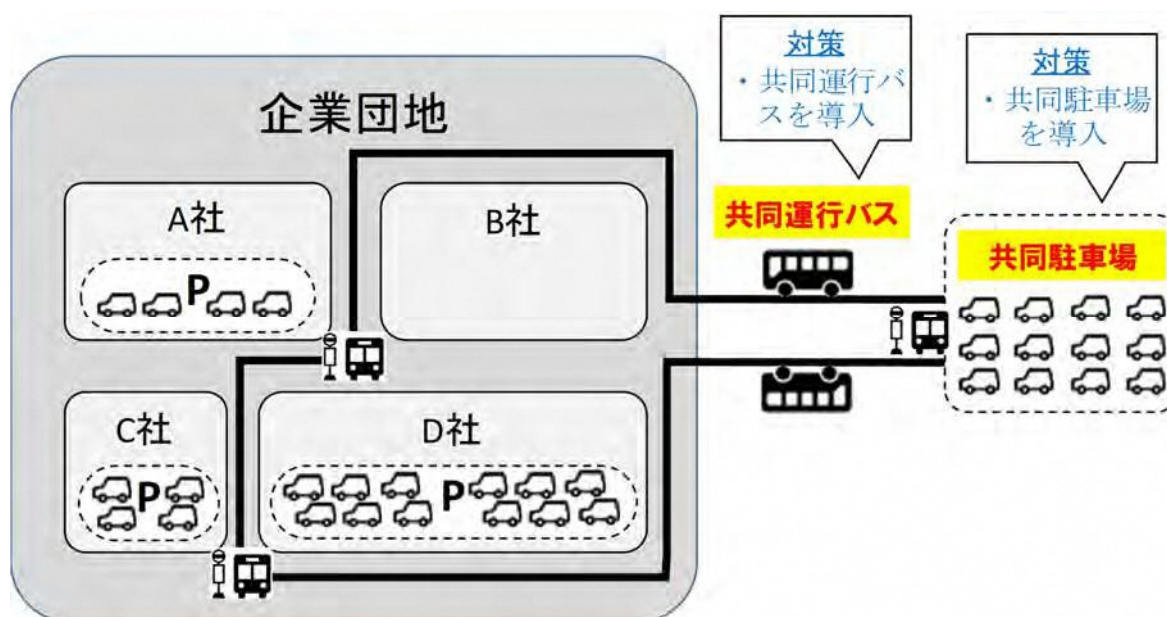
②事業者との協働による公共交通施策の実施

事業内容	○企業共同バス等の導入検討 ・駐車場用地が不足している企業団地等に対し、共同バス等の導入検討を促します ○ブーゲンビリア号の利用促進 ・民間事業者と協働で運行している送迎バス活用モデル事業（ブーゲンビリア号）の利用を促進します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・通勤に伴う市街地の渋滞解消 ・高齢者の交通事故抑制
実施主体	糸満市、交通事業者、商工会、その他（市内事業者）

【共同による課題解決策の実施イメージ】 ※県外の事例を参考

- ・駐車場用地が不足している企業団地等における課題解決策の一つとして、従業員専用の共同駐車場及び共同運行バスの導入が有効と考えられます

■実施イメージ図



③地域主体の交通づくり支援制度の導入検討

事業内容	○地域が主体となって交通づくり支援制度の導入検討 ・各地区の交通に関する課題を地域が主体となって解決できるよう、行政による地域支援の仕組みや財政支援の基準等を検討します
実施効果	・公共交通の利便性向上 ・市民の移動満足度向上 ・高齢者の交通事故抑制 ・市民が公共交通を考えるきっかけづくり
実施主体	糸満市、交通事業者、地域住民

【地域住民が予約受付・運行全てを行う予約型乗合タクシー】※茨城県日立市 HP より

- ・もともとは、社会福祉協議会が運行していたが、地域住民の間で、地域における移動手段確保についての意識が高まり、自らが運行することとなった事例

■市町村：茨城県日立市

■事業名称：中里地区乗合タクシー「なかさと号」

■導入の目的・背景

日立市西部の中里地区は、当初、公共交通空白地域で、高齢者の足を確保するために、日立市社会福祉協議会が実施主体となってデマンド型乗合タクシーを運行していました。

その後、懇談会やシンポジウムを開催し、「責任と費用の分担」について議論を高め、利用者からの声によって、地域の自分たちで考え、判断することとなり、地域が乗合タクシーを運行するためのNPO法人（助け合いなかさと）を平成21年5月に設立されました。

■運行概要

利用対象者：事前利用者登録をした町内在住者

運行時間帯：8:30～15:30

運行便数：1日4便

乗降場所：とくに指定なし

運賃：高校生以上300円、小中学生150円

予約方法：NPO内の予約センターに電話連絡

運行主体：NPO法人「助け合いなかさと」

運行従事者：地域住民などが運転手を担当

その他：運行に際して、全住民から会費（1世帯1,500円/年）を徴収し、オペレーターや運転手も地域住民が行っています。



▲使用している車両



▲地域住民がオペレーターを担当

【地域住民が主体となって、コミュニティバスを運行した事例】※千葉県市原市 HP より

- ・地域が主体となって、市からの支援（技術的・経済的）を受けながら、コミュニティバスの運行及び運行後においても維持に向けて周知活動等を継続的に実施していた事例

※平成 30 年 10 月 1 日小湊鉄道株式会社により一般路線化

■市町村：千葉県市原市

■事業名称：コミュニティバス「あおバス」

■導入の目的・背景

- ・地元自治会は、平成 8 年からバス事業者に運行を要望してきたが、実現には至りませんでした
- ・平成 15 年度に、市原市が「バス交通調査」を実施し、公共交通空白地域における住民主体のバス等の運行を検討するとし、市内の町会などに説明を行いました
- ・当初は、運行の要望にとどまっており、自らの熱意で運行を実現させようという意識は少なかったが、市役所からの働きもあり、平成 16 年 8 月に、地元 3 町会が「青葉台に市民バスを走らせる研究会」が発足しました
- ・その後、住民自ら主体となって、「バスが必要」「バスを走らせたい」という強い思いから、市の支援を受けながら、住民自ら地元住民アンケート調査の実施、ルート・運営形態・運行ダイヤ・運賃・収支等の検討を行いました
- ・その後、バス事業者及び市役所と協議調整を重ね、平成 17 年 11 月に「あおバス」として運行が開始されました
- ・また、地元組織も、各町会の代表で構成される「青葉台コミュニティバス運営協議会」を設置し、協議会からバス事業者に運行委託を行っています

■運行概要

利用対象者：地区居住者以外も利用可能

運行開始日：平成 17 年 11 月 1 日

運行エリア：区域限定（区域外に共通乗降場所の指定有）

運行日：月～土曜日（祝日、12/29～1/3 を除く）

運行時間帯：6 時～23 時

運行便数：平日上り 21 本/日（内、急行 13 本/日）下り 17 本/日（内、急行 9 本/日）

乗降場所：バス停 16 ヶ所

運賃：100 円～220 円（路線バスに準ずる）

運行車両：小型バス（路線バス仕様：32 人乗り）

運営主体：青葉台コミュニティバス運営協議会（町会の組織）

運行主体：小湊鉄道株式会社



▲使用している車両

④市役所来庁者、市職員の公共交通利用促進

事業内容	○市役所来庁者、市職員に対する公共交通利用の促進 ・市役所来庁者への公共交通利用を呼び掛ける他、市職員に対するノーマイカー月間導入等、公共交通利用を促進します
実施効果	・市民が公共交通を考えるきっかけづくり ・中心市街地の渋滞解消
実施主体	糸満市、地域住民

【市職員公共交通通勤の事例】※兵庫県豊岡市資料より

- きっかけ：市民説明会で厳しい声
- ・市職員は公共交通で通勤しているのか
- ・過疎地の進む地域だけでは支えきれない
- ・一人しか乗らない公用車は無駄ではないか

■e 通勤プロジェクトの推進方策

- ・通勤・通学定期券所有者の「コバス」無料化
- ・「コバスエクスプレス」の運行
- ・JR、KTR、全但バスの運行ダイヤの改善
- ・パーク＆ライド駐車場の確保
- ・市役所時差出勤制度（早出・遅出）の導入
- ・バス定期券購入手続きの簡素化
- ・公共交通情報誌「足ナビ」の作成
- ・豊岡ノーマイカーデーの創設
- ・健康ポイント付与 など

■実施結果

- ・豊岡市職員の公共交通による通勤者数
平成 21 年 6 人
→ 平成 27 年 147 人



市役所e通勤チャレンジ 参加者募集

だれでも簡単に参加できるバス等公共交通による通勤実験を実施します。

みなさんが毎日何気なく利用している便利で快適なクルマ！好きな時間に、重い荷物を持つことなく、エアコンの効いた車内で、必ず席に座って、自由に目的地に到着することができます。でも、みなさん一人ひとりがクルマの便利さを求めた結果、社会全体として様々な問題を引き起こしています。

バスなどの公共交通の衰退のほか、地球の温暖化、市街地の郊外化、交通事故の増加、どれも過度のクルマ社会の進展がもたらした結果です。これらの問題は、一人ひとりがクルマの利用を控えることでしか解消できません。

そこで、まず私たち市職員が問題意識を持ち、ちよつとした日常生活の工夫によって、バスなど公共交通による通勤にチャレンジしてみませんか。

平成20年1月7日(月)～2月15日(金)の間で都合の良い日1日(申込は、平成12月26日(水)まで)

とても簡単です。職場を通じて参加者登録票を都市整備課に提出してください。「最寄りバス停の発着時刻がわからない・・・」「最寄りのバス停までかなり距離がある・・・」といった方には、モデルプランを事務局で作成します。

本行、総合支所等に勤務し、通常自動車通勤している全ての職員が対象です。

全但バス、コバス、竹野バス、但東バス、JR、KTRのいずれかをご利用ください。(徒歩、自転車又は自動車などと組み合わせて利用することも可能です。)

職場ごとの参加人数や割合、二酸化炭素排出抑制量を試算し公表する予定です。

中興市長も参加します。地球の環境保全や公共交通の維持、とりわけ路線バスの廃止が大きな社会問題となっているこのときに、市役所職員による率先した取り組みは、大変意義深いものです。

私も下宮口朝7:40のバスでの登りにチャレンジする予定です。1人でも多くの職員のみなさんの参加を期待しています。

豊岡市都市整備課内
豊岡市地域交通検討プロジェクトチーム TEL 0796-23-1111(内線2494)
(プロジェクトチームと都市整備課では公共交通による通勤実験を先行実施しています。)

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

【社会実験への糸満市役所職員の参加人数】

■平成 30 年度わったーバス大実験への参加人数

- ・糸満市役所職員： 21 人
- ※全体参加者： 2,476 人



わったーバス大実験
～一人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう!!～

参加事業所 募集中!!

実験期間：平成 30 年 10 月 15 日～10 月 31 日

わったーバス大実験は、実験期間中に参加頂いた企業や事業所等の皆様に、ノーマイカー通勤や時差出勤などに取組んで頂くことで「かしこいクルマの使い方」について考えて頂くとともに、道路渋滞の減少効果について検証を行うものです。

(2)効率的で持続可能な公共交通を検討する

①デマンドバスの本格運行（主要事業）

事業内容	○デマンドバスの運行内容見直しを踏まえた本格運行 ・試験運行結果を踏まえ、持続可能性のある運行内容に見直したうえで本格運行します
実施効果	・デマンドバスの採算性の向上 ・デマンドバスの乗合率の向上
実施主体	糸満市、交通事業者、地域住民

【導入の必要性】

- ・現在、デマンドバスは市民の利用の増加により、お断りするケースが増えており、現在のサービス水準では需要に対応できていません
- ・しかし、お断りするほどの需要があるにも関わらず、運賃収入だけでは運行経費は賄えていません
- ・現在のサービス水準を見直さず、増え続ける需要に対応するには、デマンドバスの運行台数を増やす案が想定されますが、その場合、市の財政負担は際限なく大きくなります
- ・また、現在デマンドバスが運行していない時間帯である朝・夕の通勤通学時間帯の運行の要望が市民から多く挙がっています
- ・上記の観点から、試験運行結果を踏まえ、一定の移動需要が見込めるルートは路線化（コミュニティバス等）に向けた検討をする等、持続可能性のある運行内容に見直したうえで本格運行し、維持する必要があります

※しかし、運賃収入のみでの黒字化は難しいことが予想されることから、地域公共交通確保維持改善事業の活用が必要不可欠だと考えられます

■想定される車両タイプ

- ・市民の移動需要を十分に満足するには、集落内の狭小な道路を走行できる必要があり、小型の車両が望ましいと考えられます
- ・さらに、市内一部路線バスの需要と、デマンドバスの需要をカバーする必要があり、一定の定員が確保できる車両が望まれます
- ・上記の観点から、以下のような車両の取得が必要と考えられます

※運行経費同様、運賃収入のみでは車両取得費用を回収することは難しく、地域公共交通確保維持改善事業の活用が必要不可欠だと考えられます

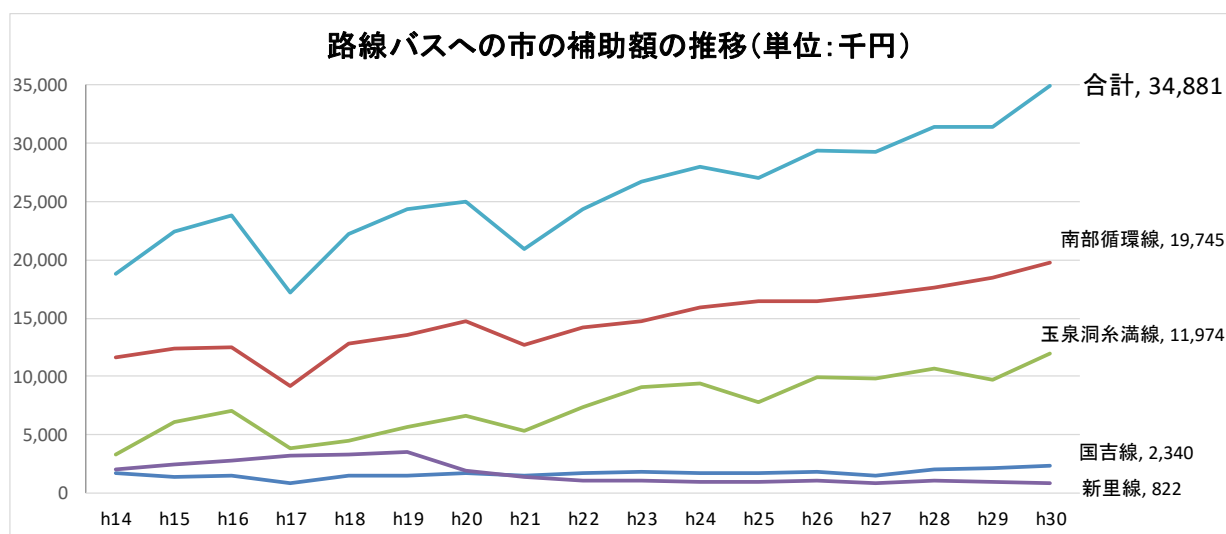
分 類	大型ワゴン	画像： トヨタ ハイエースコンピューター ※「おでかけなんじい」で使用している車両 
長 さ × 幅	5.4m×1.9m	
乗 車 定 員	～14 人	
最 小 道 路 幅 員	4.5m	
価 格（目 安）	280 万円～	
燃 費	10.2km/ℓ	
特徴 ・比較的小回りが利き狭隘な道路でも通行可能 ・定員数が多いことからバスと称して使用される事が多い ・定員が 11 名以上なら運転には中型免許が必要		

②市内補助路線の効率化に向けた取組（主要事業）

事業内容	○バス事業者と連携した持続可能なバス路線の検討 ・バス事業者と連携し、補助対象となっているバス路線について持続可能な運行に向けて検討します
実施効果	・継続的な地域公共交通の維持
実施主体	糸満市、国、沖縄県、周辺市町村、交通事業者、地域住民

【検討の必要性】

- ・市内を通過・循環している路線バスのうち、那覇市へ向かう路線は採算性が確保されているものの、南部循環線、新里線、玉泉洞糸満線の3路線は不採算路線となっており、補助金を拠出して路線を維持しています
- ・平成30年10月には、市内公共交通網を一部再編し、補助対象路線だった国吉線を廃止、運行頻度を下げデマンドバス車両（10人乗り）を使った代替運行を実施しています
- ・しかし、いとしちゃんmini（デマンド交通）の利用状況や市民アンケート結果から市内の移動需要をみると、人の動き（時間、場所、目的、同行人数）が分散しており、路線バスのルートでは、移動需要をカバーできていません
- ・さらに、このまま路線やサービス水準を見直さず、利用者が減り続けると、国、県の補助要件から外れる可能性があります
- ・上記の観点から、デマンドバスやコミュニティバスとの組み合わせの最適化を図り、バス事業者と連携して持続可能な運行に向けて補助路線の効率化を検討する必要があります



▲路線バスへの補助額の推移 (H14~H30)

6. 達成状況の評価

(1) 評価方法（PDCAサイクルの実行）

本計画で掲げた事業を着実にかつ計画的に実行し、設定した目標を達成するため、実行に移し(Do)、結果・成果を評価し(Check)、改善・改良を加え(Action)、次の計画(Plan)へと繋げる、PDCAサイクルを実行します。

市民の生活や地域公共交通を取り巻く環境の変化が早い現代にあっては、推進事業の不断の見直しが求められています。また、市民の実感できる計画や事業の推進を図ることが重要であることから、市民との協働により計画や事業の推進を図ります。



(2) 各事業のスケジュール

事業ごとの5年間のスケジュールおよび計画期間以降の事業の継続について示します。

なお、PDCAサイクルの実行については、進捗状況を勘案しながら事業ごとに行うこととします。



■各事業の実施スケジュールと実施主体

取組の方向性	事業実施方針	具体的な事業	実施主体（●） 関係団体（○）												期間							
			糸満市	糸満市委員会	糸満市教育委員会	国	沖縄県	周辺市町村	交通事業者	地域住民	社会福祉協議会	観光協会	警察	商工会	その他	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度以降	
1 すべての人にやさしい公共交通網の形成	(1)すべての人にやさしい移動手段を確保する	①高齢者・障がい者等の生活移動に対する支援策の実施	●					●		○		○									継続	
		②学生の通学移動に対する支援策の実施	●	●			○		●												継続	
	(2)すべての人に馴染む公共交通を目指す	①啓蒙啓発活動の実施	●	●				●	○	○											継続	
		②市内イベント等と連携した公共交通利用促進策の実施	●	●							○	○		○	●						継続	
2 地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備	(1)地域特性や移動需要に応じた移動手段を整備する	①通勤、通学しやすい公共交通の検討・整備	●	●				●								検討		実施			継続	
		②市内公共交通網再編に向けた検討・実施	●	●	○	○	○	●	○	○	○		○			検討		引き続き検討			継続	
	(2)多様な移動交通手段との連携策を検討、整備する	①パークアンドライド駐車場、カーシェア、サイクルシェア等の連携、整備に向けた検討	●					○	○		○		○	○			検討		事業着手		継続	
		②新交通ターミナルへのレンタカーステーション導入に向けた検討	●								○			○			検討				継続	
3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化	(1)新交通ターミナルを中心とした利便性の高い公共交通を整備する	①市民や観光客が集まる機能を備えた新交通ターミナルを整備	●				○		●	○		○		○	○		検討		事業着手		継続	
		②新交通ターミナルをすべての支線と幹線の起終点とし、あらゆる移動手段を結節	●			○	○	○	●	○		○						検討			継続	
	(2)まちづくりと整合性のとれた公共交通網を形成する	①都市整備事業（シンボルロード整備、小さな拠点創出）と連動した交通結節点の整備	●						●	○			○					検討		事業着手		継続
		②他施策と連動した新たな公共交通網の整備の検討	●	●					○		○	○		○				検討			継続	
	(3)関連計画や国、県、周辺市町村と協調し、整合した公共交通を検討する	①都市マスタープラン等の関連計画と整合のとれた公共交通の整備	●						●												継続	
		②国、県、周辺市町村との公共交通施策の協調・整合	●			●	●	●	●	○											継続	
4 市の活力向上及び持続的発展に資する公共交通の整備	(1)市外とのアクセス性を高める公共交通を整備する	①空港に直接アクセスできる公共交通の導入検討	●				○	○	●	○		○			○	検討		実施			継続	
		②周辺市町村とのアクセス性向上に向けた公共交通の見直し	●					●	●									検討			継続	
		③軌道系公共交通の導入検討	●			○	○	●	○				○					検討			継続	
	(2)市内の回遊性を高める公共交通を整備する	①周遊観光に利用できる交通交通の検討	●						○			○			○			検討			継続	
②市内主要拠点を繋ぐコミュニティバスの導入検討		●	○					●	○	○	○		○	○	検討		実施			継続		
5 地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現	(1)地域、事業者、行政の協働を推進する	①公共交通に対する企業協賛金制度の導入検討	●											○	●	検討		実施			継続	
		②事業者との協働による公共交通施策の実施	●						○					○	●			実施			継続	
		③地域主体の交通づくり支援制度の導入検討	●						○	●								検討			継続	
		④市役所来庁者、市職員の公共交通利用促進	●			○			○	●											継続	
	(2)効率的で持続可能な公共交通を検討する	①デマンドバスの本格運行	●						●	○						検討		実施			継続	
		②市内補助路線の効率化に向けた取組	●			○	○	○	●	○						検討		実施			継続	